

【住宅のイメージ 設計ポイント（配慮項目）】

<家について>

・北方型住宅ECO以上の性能

「みどり野きた住まいるヴィレッジ」の家は、寒地住宅の専門資格であるBISを持つきた住まいるメンバーが、「北方型住宅」の中で最も高い性能を有する「ECO」を凌ぐものを目指します。国の低炭素認定住宅、長期優良住宅、ZEHに要求される外皮性能を満たすと同時に、一次エネルギー消費量削減の指標として新たに登場したBELSの最高等級(★★★★★)をクリアすることを提案します。

◇目指すべき環境性能

断熱性能：UA値：0.28W/m²K以下

BEI：<0.8 (★★★★★)

C値：<0.5cm²/m²

住宅仕様：低炭素認定住宅、長期優良住宅、フラット35S金利A

等級：劣化対策等級3、耐震等級2、維持管理対策等級3

・コンパクトな面積

目指したのは「小さく建てて大きく暮らす」そんな家。面積にこだわるのではなくその質の高さにこそこだわりたい。必要にして十分、むしろ簡素であることは不要なものに囲まれるストレスや将来持て余す不安から解放してくれます。



・半屋外空間のある家

緑豊かな南幌暮らしを楽しむ上で絶対に欠かせない「半屋外空間」。例えば家族の集う第二の居間として、週末のバーベキューをはじめ、さまざまな屋外の楽しみの拠点として、緑や花を愛でる庭として。



・屋上のある家

周囲の豊かな眺望を楽しんだり、グランドレベルとは違う機能や暮らしの幅を広げる可能性を持った屋上を設けます。



・可変の備え（簡単なアレンジで変化に対応）

住み手のライフステージの変化に合わせて、ドアをつける、あるいは外すといった簡単なアレンジに対応できる設計をします。

・つくり込み過ぎない家・増改築しやすい家

将来において、間仕切り壁を設けたり部屋を増やすといった増改築をする場合にも、変化に対応しやすいよう、あらかじめつくり込みすぎない設計をしておくといよいでしょう。

<家のまわりについて>

・雁木空間・カーポートのある家

南幌暮らしに欠かせない車と雪に対する備え。冬場の日常動線（住宅へのアプローチ）を確保し、安全であると同時に毎日の雪かきを軽減します。もちろん普段の用を満たしながら、家との統一感を考え、デザインすることで車のある街並みも素敵になります。また、アプローチ空間は、バーベキューや隣人との接点に活用します。



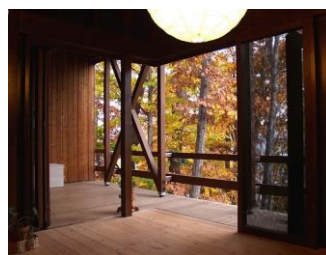
・軒下空間の充実

田園に囲まれた南幌暮らしは豊かな農との共存が魅力。軒下はそんな農作物が干され、美味しさ変わる場所。私たちの日常からいつの間にか姿を消した、軒下のある家と暮らしの風景を復活させます。



・テラス・デッキスペースをつくる

多目的な屋外スペースとして室内と連続するテラスや木製デッキをつくり、毎日の暮らしを楽しみながら室内空間の質も大きく高めます。もちろん趣味の庭仕事やその他さまざまな屋外の活動にも活躍します。



・住宅とデザインを統一した 物置を設置

敷地内の物置は、前述のカーポートや雁木空間と同じように全体的な視点でデザインします。統一感の保たれた住宅街の景観は地域の価値を上げ、主体的で前向きな住まい手を惹きつけることでしよう。



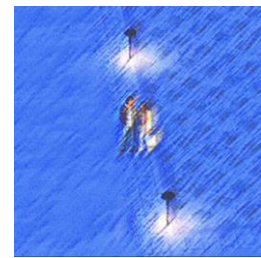
・ガーデニング（外構）のススメ

敷地内では何らかのガーデニングに取り組んでほしいと思います。庭を広く使って、もちろん本格的な庭づくりもよいでしょうし、家庭菜園やデッキの上で野菜やお花を育てることもいいと思います。外壁にツタを這わせたり、南側に落葉樹を植えたり、さまざまな工夫がまちを楽しくします。コンサバトリーを設置してもよいでしょう。



・街路灯の工夫

敷地内に低目の位置から街路を照らす照明を設けるといいでしょう。夜間の防犯の備えとして、また夜空の星を楽しむために。



<家の素材について>

・内装に地域材を活用

飾らずシンプルなデザインの家は、地域材を用いることでさらに愛着を増します。内装に道産の木材や珪藻土、ホタテ漆喰、ストーブ用にペレット、ストーブ周りにレンガを使うのもよいでしょう。



・外装に地域材を活用

内装同様に外装にもカラマツやブロック、レンガといった道産の材を用いるとよいでしょう。こうした地域の材と技に投資することは再び地元にお金を戻し、再生可能な地域社会を育む一助となります。年月を経るほどに味わいが増し、価値も高まる。そのような素材を生かしてデザインします。

